

学校支援地域本部事業実践現場訪問

昔ながらの米づくり ～田植えの体験学習～ 村田町立村田第二小学校

1 はじめに

村田町では地域社会と学校の協働を進めるために、「村田町学校支援事業」(文部科学省の委託事業である「学校支援地域本部事業」を活用)に取り組んでおり、今年で3年目を迎えます。

この事業は、地域全体で学校の教育活動を応援しようとする取組です。学校行事や学習活動の手伝い、環境整備、登下校時の子どもの安全確保など、学校支援ボランティアとして登録された地域の方々が自分の特技や技能を生かし、子どもたちの教育活動のために協力することで教育活動の充実を図ります。学校支援ボランティアの方々にとっても、生涯学習における「学ぶ機会」や「生きがいづくり」へとつながる場でもあり、地域の教育力向上や活性化にも貢献しています。

村田町では、5月現在で個人登録99名と5団体(計44名)の合計143名の地域の方々が学校支援ボランティアに登録しています。5月12日(水)には「村田町学校支援協議会」が開催され、活動計画や各関係機関との協力体制の構築などについて話し合われました。今後、村田第一中学校区、村田第二中学校区と2つの学区に分かれて学校支援推進委員会も開催され、具体的な活動状況について話し合われます。

町内の学校から教育活動に対する要請も徐々に増えてきており、学校と学校支援ボランティアをつなぐ窓口となる地域コーディネーターが献身的に活動しています。今回は学校支援ボランティアの指導のもとに行われた村田第二小学校の5年生による「田植え体験学習」の様子を拝見させていただきました。

2 訪問日 平成22年5月10日(月)

3 学習の場 村田町立村田第二小学校 学習田

4 取組の概要

今回の学習では、5年生の総合的な学習の時間の一環として、学校支援ボランティアのみなさんを指導者に、「昔ながらの田植えの体験学習」に取り組みました。「田植え」や「稲刈り」をはじめとした農業体験学習は多くの小学校で実践されていますが、村田第二小学校の農業体験学習はひと味違います。それは、一言で言うと「本当の米づくり体験学習」と言えます。

村田第二小学校では学校支援ボランティアである地域の方々を指導者に、1年を通して米づくりの学習に取り組みます。米づくりについて先人の苦労や米ができるまでを学ぶ事前学習からスタートして、田植え、除草作業、稲の生長観察、稲刈り、脱穀、精米、さらにわらを活用した伝統文化など昔から伝わってきた米づくりの方法に加え、米づくりに関連した伝統や文化についても学習していきます。

それは、実際に米づくりに携わっている地域の方々が学校支援ボランティアとして協力・応援してくれるから可能になる学習です。学校の教員だけではそこまで学習を進めることは難しいと思われます。地域の教育力を活用して専門的なところは地域の方にご指導いただき、それを学校の教員が補充・深化するという形で学習が進められます。

子どもたちも、学校支援ボランティアの方々の指導に熱心に耳を傾け、田んぼの泥に足をとられ悪戦苦闘したり、汚れた足を水路で洗ったりなど楽しそうに学習していました。

5 村田第二小学校を訪問して

村田第二小学校は、協働教育モデル実践として「コラボスクール推進事業」に取り組んだ経験があります。学校支援ボランティアが子どもたちの教育活動をしっかりと支えるなど学校を支援する組織や体制が整えられ、学校と地域がお互いに協働しながら子どもたちをよくしていこうとする姿が見られました。毎週水曜日には、地域の高齢者の方々が来校して子どもたちとの交流活動が定着するなど、高橋校長先生を中心として、協働教育が推進されている様子を拝見することができました。

【取組の様子】



5年生の児童は、田植えの体験学習をとても楽しみにしていました。



地域コーディネーターのコーディネートによって集まった学校支援ボランティアのみなさん。



学校支援ボランティアの渡辺さんが、昔の田植えの仕方について説明してくれました。



学校支援ボランティアの代表の方から田植えの仕方について説明を聞きました。



みんなで一斉に田んぼに入りました。泥に足がとられてしまいます。



田んぼの中の線が交わったところに苗を植えるように教えてもらいました。



田んぼの中では、なかなか思うように動くことができません。



無事に苗を植え終わりました。これからが本当の米づくりの勉強です。